

特別養護老人ホーム 秋桜 10周年記念

『特別座談会』

～未来の福祉を考える～

現在、様々な課題が取り沙汰されている「地域福祉」と2025年へ向けて更に困難になると予測される「人材確保」について、県内唯一の福祉教養科を持ち未来の福祉人材育成に携わる千葉県立松戸向陽高等学校長 関口美栄子氏と、地域住民への支援や介護福祉士など施設現場に携わる人材育成を行う特別養護老人ホーム秋桜副施設長 阿部 桂氏にお話を伺いました。「教育のプロフェッショナル」と「介護のプロフェッショナル」お二人によるスペシャル対談となっています。

テーマ①

「それぞれの立場から考える地域福祉とは」

テーマ②

「介護人材の明日を考える～2025年に向けた介護人材確保へ～」

千葉県で唯一福祉に関する専門学科を持つ県立松戸向陽高等学校、そして同市に所在する特別養護老人ホーム秋桜。福祉の現場へ生徒を送り出す「産みの親」と、その人材を任せられ運営する「育ての親」それぞれの視点から、地域における福祉介護を取り巻く課題や将来について語っていただいた。

関口 美栄子 氏 (パネリスト)

千葉県立松戸向陽高等学校 校長

全国福祉高等学校長会 副理事長

千葉県高等学校教育研究会福祉部会 会長



県内公立高等学校の教員として、健康教育や看護教育に携わってきた実績を持つ。3年前に県内福祉教育の拠点校である県立松戸向陽高校に校長として着任し、現在福祉教育に深く関わっている。国の社会情勢や、福祉を取り巻く状況を踏まえ、県内及び全国における福祉教育の充実と地域との連携を強く感じ、「出来る事から取り組める」体制作り着手している。

阿部 桂 氏 (パネリスト)

社会福祉法人 永春会

高齢者施設事業部 特別養護老人ホーム秋桜 副施設長

高齢者在宅事業部 部長

東京福祉専門学校ケアワーク学部 客員講師

16年前より高齢者福祉に携わり、支援を必要とする高齢者やその家族へのサポートに深く関わってきた実績を持つ。10年前に特別養護老人ホーム秋桜の生活相談員へ着任し介護支援専門員の実務を経て、特養副施設長として介護福祉士などの後継者育成に努めながら、現在は在宅事業部長としても地域住民へのサポートを行っている。



三田 達也 氏 (コーディネーター)

株式会社 マザーライク 代表取締役

まつど観光大使



2009年から介護事業に参入し、千葉県東葛地域を中心に高齢者住宅や介護保険事業所を展開。現在はサービス付き高齢者向け住宅6棟、介護保険事業所12か所を運営している。2016年の4月には松戸市小規模保育事業こすもすベビールームを開設するなど、新たな取り組みを行っている。

三田代表取締役 ※以下、役職略

お二人が学校や施設という団体組織で、こういった地域福祉に取り組んでいるのか教えてください。

関口校長 ※以下、役職略

学校が地域の中で福祉活動に協力できるという意味では、様々なボランティア活動を生徒は行っています。ボランティア部や絵本研究部、福祉教養科の生徒が特別支援学校等にお伺いしたり、地域の行事に吹奏楽部が演奏を行うなどの取り組みを行っています。

三田

学校として、学生が取り組みを行いやすい仕組みができていますか？

関口

全員が取り組みを行っているわけではなく、部活動が自主的にボランティアを行っている形です。絵本研究部は保育ルーム等の地域に出向いて読み聞かせを行っています。



阿部副施設長 ※以下、役職略

秋桜として、何か地域で福祉活動が出来るか考えると、地域の方たちと顔見知りになるために、僕らが外に出て、認知症の方や障害者の方を覚えておき、町会と連携を組みいざという時に対応できる体制作りに取り組みました。

施設イベントも行い“知ってもらおう”活動ですね。「地元には秋桜があるよ」と認識してもらおう活動をしてきました。

三田

そういった取り組みは、学校も同じですね？活動を行うことで松戸向陽高校に行けば専門の学科があると浸透していくかと思えます。

永春会では地域包括支援センターの運営もされていますが特養だけでは足りないな、というお考えからですか？

阿部

秋桜がある“明第2西地区”は高齢者が1万2000～3000人位生活されています。特養として、地域高齢者・障害者を支えようという思いも限界があります。松戸市が「地域包括支援センターを広げ、学校区域に増やします」と公募がかかった時には「これはやるべきだ」と手をあげ受託させていただきました。

地域包括支援センターは相談機能が強く‘自助’‘共助’‘公助’全ての役割を担っているので、その機能を使ってサポートが必要な方を把握し、ワンストップ窓口として機能していると思います。

三田

地域包括支援センターが助けになっている方たちは多くいると思います。その反面、まだまだ存在を知らない方達もいらっしゃると思いますが？

関口

やはり福祉と聞いても、実際はイメージができません。

本校が普通科でも福祉に取り組んでいるのは、福祉を学び、その立場になったときや家族が必要になった時に、どういう物が使えるか・どこに相談に行けばいいのか知る事が大事だと思っています。

その中に地域包括支援センターもあり、何でも相談できる場所は地域住民にとっては大変いいことだと思います。

阿部

地域包括支援センターの職員の悩みは「知らない人が多い」所です。実際、私の母も知りません。「どこに行けばいいの？」と言っています。

学校にそういった機関が入っているとして、「あそこに行けばいいんだよ」となれば分かりやすいですね



関口

専門学科はあるが「福祉教育＝松戸向陽高校」までは至っていません。そういう面では、学校としても

PRが必要ですね。

三田)

地域の方が直接学校に相談に来るようなことはありますか？

関口)

それはないですね。やはり学校は学校という認識だと思います。

三田)

学校なので直接地域福祉と関わる機会は少ないと思いますが、学校・特養とそれぞれの地域で「もっと、こんな事があつたらいいのに？」と思うことはありますか？もちろん、松戸市内・千葉県内の大きなくくりでも構いませんが。

関口)

地域となると難しいですね。家庭科の授業で地域の高齢者の方をお招きし、人生の先輩としてや地域で生活していくことについてお話をしています。

あるいは、地域の元気な方がお隣の高齢者の方を気に掛けるような事柄をお話ししていただいて、生徒達が将来地域でどうやって生活していくのかを考える機会があります。

それをもっと大きな活動にしていくと、ハードルが高くなってしまうと思います。

阿部)

若い方が地域に出てきていないですね。

今は高齢者の方が高齢者の方を支えているので、どうしてもアナログな活動になってしまっている。新しいアイデアを持つ若い世代のボランティア団体が上手く地域で活動出来たらいいと思います。

三田)

先ほども‘自助’‘共助’‘公助’のお話がありましたが、ボランティアが行う無償のサービスと訪問介護等の有料のサービスと大きく分けると、この2つになるとと思いますが、今はどちらが足りないと思いますか？



阿部)

ボランティア団体からすると、新しく入ってくれる人がいないと聞いています。松戸市では介護支援ボランティアがあり、行政が主導しポイントに応じて金銭が支払われる仕組みがあります。そういったことから、行政もボランティアが減ることは理解しており、増やそうとしていると思います。

関口)

若い世代の人口が少ないので、一人一人に求められている役割が多くなっています。働かなければ家族を養えないし、介護もしないとならない人もいます。ボランティアで他の人の介護に行くことを求めることは厳しいと思います。

三田)

テーマの最後にお二人が考える、安心して暮らせる地域はどういった形か？また実現するために良いと思える取り組みはありますか？

阿部)

全ての世代の方達に、これからの日本がどうなっていくのか？それこそ、2025年2035年にはどんな世界になっているのかをマスコミ等の何かしらの形で、分かりやすく伝えて欲しいと思っています。その中で「これからは助け合いが必要だ」と。ですから、ご近所同士で挨拶できる昔のようなコミュニティを復興させるような取り組みを秋桜グループでお手伝い出来ればと思います。

関口)

福祉というと介護と結びつきやすいが、福祉は生活する地域でそれぞれに幸せに過ごす事だと思います。

福祉の心や福祉はこういう事だと、学校としては生徒に伝えていき、そういう心をもった人達が地域に出て、お互いに協力していくこと。福祉を理解した人たちが生活している地域を協力して支え合えればいいと思っています。



三田)

厚生労働省が示した試算によれば、団塊の世代が75歳以上になる2025年には約250万人の介護人材が必要とされており、様々な施策を行ったとしても約38万人の人材が不足するとされています。今後の超高齢社会にとって、不可欠であり重要な基盤である介護人材を質・量ともに安定的に確保するためにどうすればよいか、介護人材の明日を考えたいと思います。

今、福祉教養科への入学希望者は増えているのでしょうか？それとも、減っているのでしょうか？

関口)

多少波はありますが、増えている状況でも、減っている状況でもありません。やはり、高校から専門の学科を選択してくる事は他の専門学科を見ても多くはありません。



三田)

専門的な学科を中学3年生の時点で選ぶわけですからね。家庭環境や周りの影響で選ぶ生徒が多いですか？

関口)

多いと思います。家族が職業についていたり、介護が必要な方が身近にいて体験している場合や、「何か人の役に立つ仕事に就きたい」という思いがある生徒が多いです。

三田)

そういった生徒たちに特徴はありますか？

関口)

中学卒業時点で進路を決めているので、目的意識がしっかりしていたり、資格取得のために授業を休めないこともあります。一生懸命に取り組む生徒が多いですね。

三田)

普通科にも福祉コースがありますが、希望者は？

関口)

1クラス分の定員ですが、初任者研修を取得するために、こちらも授業に出席する必要がありますので安易に選択をしていません。多いという状況ではありませんね。

三田)

専門の科があり、ボランティア等を行っている所を間近に見ることで、興味を持つ生徒は他校より多そうですね？

関口)

普通科のみの学校に比べると希望者は多いと思います。1年生から社会福祉基礎という科目を勉強しているので、介護の職に就かなくとも、福祉を学ぶ事で自分が将来保育・看護等の対人援助に関わる仕事に就きたいと考えている生徒が、基本的な知識を身に付けたいと選択する場合もあります。「福祉＝介護」ではなく、広く捉えて選択しています。

三田)

特養では人材不足はすでに始まっていますか？それとも、まだ感じられませんか？

阿部)

人材不足はかなり前から始まっています。職員が離職する面は企業努力もありますが、社会全体では介護は将



来性があるものの、処遇面や3Kと言われるイメージが拭えていません。働き手はいるが「パートでいい」「常勤までは」と考えている人が多いです。資格を持っている人も多くいます。5年ほど専門学校の講師をやっていますが、専門学校にも人が集まっていない状況で、年々減っています。ただ、生徒は減っているが目指す子はいます。介護職を目指して卒業した人材を、どう育成しているかが法人の役目になると思います。

三田)

離職を防ぐ取り組みは行っていますか？

阿部)

「何の目的をもって入職してきたか」を大切にしたいと思っています。本来やりたかった事を聞いて、不安に思っているなら話を聞いて協力をしてあげたいです。最初の目標から、食事・排泄等の固定された業務と言われるものに比重が重くなってしまい、疲弊することで目標とするやりたいことが出来ず、福祉に興味がなくなる・居場所じゃないと考えてしまい離職につながります。自分たちが行いたかった事を行える仕組みや目標を忘れない取り組みのため、勉強会や話を聞く場を設けています。専門職なので、介護士として重要な役割や責任がかかってきます。不安や悩みを聞いて、一緒に歩く事が大切だと考えています。

三田)

学生は明確な目標をもって就職していますか？

関口)

「こういう介護士になりたい」「こんな風に関わりたい」と思いをもって卒業をしています。ただ、高校生なので未熟な面はあります。就職先で大事に育てられている実感もあります。全国的にみても、専門の養成高校を卒業した人達の離職率は低いです。早くから目的意識をもって学んだ人達の特徴かもしれませんね。

三田)

就職先の企業に求める事はありますか？

関口)

働き始めてから、研修等で学ぶ機会がある体制は良いと思います。

阿部)

研修は職員が一番希望するところですね。

関口)

入職した時と、学ぶことは変わっていきますからね。医療もそうですが、日進月歩で年々変化していきます。入職後も学ぶ機会があるので有り難いです。

三田)



介護人材が38万人位足りなくなると言われていますが、企業努力も必要な中、国はどう考えていると感じていますか？

関口)

処遇改善をしようと、制度として変わってきています。まだ、検討を重ねていると思いますが。

阿部)

介護福祉士に限っては、上位の資格ですよね。今はケアマネジャーになっていますが、介護福祉士の名称をとった“認定介護福祉士”のように、質を高めるとともに目標をもってステップアップ出来るようにしていくと思います。それにとともに、処遇も改善されていき人材の部分の介護報酬が加算されていくと思います。



三田)

外国人雇用についてはどう思いますか？

阿部)

特養に一人在職しています。文化や言葉は違うが、日本人より温かみがあります。その方は「日本国民全員を家族だと思っている。その家族に自分が出来ることをするのは当然だと思っています」と話してくれました。言葉は伝わらないかもしれないが、その気持ちは伝わると思います。日本は閉鎖的なところがありますが、海外の方は視野が広いのかなと思います。

三田)

介護は技術ではなく、コミュニケーションで言葉が大事と言われていますね。

人材不足を解消する為に、ボランティアの方々に介護の仕事を担ってもらうような話も聞いていますが。

阿部)

ボランティアの方が担うのは公的には難しいと思います。それだったら、元気な高齢者を短時間でも雇用して、若い職員と一緒に介護をしていくと良いかと思います。若い世代だけを集めようとしても難しくなっていきます。

三田)

75歳以上の方が2025年に一番人口が多くなりますが、今でも75歳以上でお元気な方は多くいらっしゃいますよね。

すぐ答えが出る事ではないですが、質・量を確保するために今からでも取り組めることや解決の足掛かりになるような事はありますか？

関口)

学校として行えるのは、福祉の理解者の裾野を広げていくことだと思います。専門の学科やコースがあるだけではなく、高校生全員が福祉について理解をして、将来自分たちが社会地域に出た時に、何らかの形でいいので自分が出来る事に関わってもらえる学生を育てていきたいです。

阿部)

本来、自分がやりたかった事を大切にできる教育・指導をしていくことが重要だと思います。介

護を目指す人達が長く活躍できる場所を企業は増やしていかないといけないと思います。特養に入職しても「デイサービスをやってみたい」「地域包括支援センター

で働いてみたい」「ケアマネジャーになりたい」や、新たに資格を取得し「保育士をやりたい」

など。入職した先で活躍する場を増やす事で、末永く福祉に関わってもらいたいです。

三田)

2025年まで残り9年、今からでも取り組めることはすぐ取り組まないといけませんね。



Idle Talk

阿部)

現場職員と学生の交流は持ちたいですね。先輩介護職員の話を聞いてもらいたいです。今は実習先でしか聞けないが、施設側も忙しく話せていないと思う。

関口)

福祉についてわからないことが多く、福祉を学びたいから松戸向陽高校に行きたいと「=(イコール)」



になっていない。福

祉に対するイメージアップですよね。中学の三者面談で「介護の仕事をしたい」と希望しても、親が「介護は大変だから止めなさい」という話も聞いています。去年はパンフレットを作成して配りましたが、壁は高いですね。同じことが、専門・大学の進学時にもあり進学者が減っていると聞いています。

阿部)

介護職に「大変でしょう」と聞いても「えっ、何が？」と言います。介護の大変さは理解されていないかな？実際に働いている人達は、大変だと思っていない。

関口)

マスコミの報道の在り方もありますよね。

阿部)

「24時間寝ないで」とか報道されていますよね。

三田)

人が足りない事を解消していかなければならないのに、伝え方に問題がありますよね。

阿部)

看護師が辿った道を、介護士も辿っていると思います。おそらく、それに近づき待遇も変わってくると思う。

三田)

看護師の地位・イメージはどこで変わりましたか？

阿部)

昔は今の介護職より低く見られていました。医療の法律の中で、出来る事を増やして独占する業務を強くしていきました。

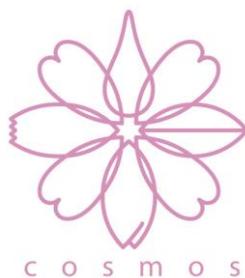
関口)

専門性を高くしていきましたよね。

阿部)

介護は名称独占なので、看護のように業務独占にした方がいいと思います。その為、国家資格の取得を厳しくしているのだと思います。

10th Anniversary



- 大地に種を撒き
- そこから芽を出し
- つぼみをつけ
- 花を咲かせる

秋桜をベースとして、アレンジをしたロゴです。

秋桜と同数の花びら。

人の成長を秋桜になぞらえて、子どもからお年寄りまでの心をつなぐ存在となり、「秋桜にかかわるすべての人に笑顔を…」与えられる法人になりたいという思いを表現しています。